

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

数年前から発生し始めたナラ枯れの被害が広範囲に及んでいます。宇津貫緑地や片倉城跡公園でも被害があり、被害木は伐採する対応が取られています。しかし、伐採木は運び出すこともできず、放置されているため、景観上も良くはなく、みどりの減少とともに深刻な問題です。

令和4年度の河川の状況は、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点で行った水質調査によると、COD値は1か所を除き、2mg/Lを示しています。しかし、橋の下や河川に降りられる場所ではごみのポイ捨てが多いため、子どもたちが描いた啓発用ポスターを掲示しました。プラスチックのごみが多いことも懸念されます。

大気汚染調査は年2回、地区内9か所を継続して行っています。国道16号バイパスは交通量が多いため、今後も大気の状態を注視していく必要があります。

■ 東南部地区の主な取組

1 駅周辺のきれいさ評価や清掃活動

毎月第4月曜日に、北野駅周辺と湯殿川(下田橋)の清掃を行いました。駅周辺のごみは減少しつつありますが、下田橋周辺や国道16号バイパスと交差する橋の下辺りはごみのポイ捨てが多くみられるため、より一層のマナーの向上が求められます。また、10月には兵衛川みなみ野大橋下の清掃を行いました。

9月と3月の年2回、JR片倉駅・八王子みなみ野駅・長沼駅・北野駅・京王片倉駅・山田駅の周辺を清掃し、ごみの種類と数を集計するきれいさ評価を行いました。ごみの数は減少傾向ですが、新型コロナウイルスの影響で、マスクやケータリング容器等のプラスチックが目立ちました。

また、11月には市、JT(日本たばこ産業(株))と連携して「喫煙マナーアップキャンペーン」を行いました。喫煙場所が少なくなった影響か、たばこの吸い殻は増加傾向にあります。

公園アドプト制度を活用し、毎月第2土曜日に大塚山公園の清掃を行いました。大塚山公園は多摩丘陵の最高地点にあります。絹の道に隣接しており、地域住民のラジオ体操の場や散策コースとしても活用されています。

2 河川の水質調査と大気汚染調査

6月の全国一斉水質調査で、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の調査を行いました。COD値は1か所を除き2mg/Lで、数年安定しています。河川周辺ではごみのポイ捨てが多くみられました。清掃活動とともに啓発活動を行う必要があります。

大気汚染調査は年2回、6月と12月に9か所で行いました。

3 自然エネルギーや節電・省エネの出前講座

8月に、クールセンター八王子と共催でソーラーッキングを実施しました。夏休み恒例の親子講座です。太陽光を集める装置を工作し、どれくらいのエネルギーができるか実験しました。天候

と時間の影響で温度の上昇が確認できた程度でしたが、時間をかければ調理も可能です。災害や節電などで電気が使用できない状況でも使用できる身近な自然エネルギーの力を伝えることができました。

4 川の学習・みどりの学習の環境学習の支援

6月～7月にかけて、由井第二小学校、由井第三小学校、七国小学校の川の学習の支援を行いました。由井第二小学校の兵衛川での学習は初めての試みでしたが、学校の裏手にある兵衛川で、身近な川の学習ができました。由井第三小学校と、初めて実施する七国小学校は湯殿川の舟橋の下で行い、子どもたちは川に魚が多い事に驚いていました。

12月には、七国小学校5年生がみどりの学習として、宇津貫緑地で落ち葉掃きの体験をしました。宇津貫みどりの会と協力し、雑木林の成り立ちや落ち葉がたい肥になることを伝えました。

5 地域の自然・自然体験講座と勉強会

自然体験講座は、春と秋の年2回、片倉城跡公園～つどいの森公園～みなみ野丘公園までを花を求めて巡りました。令和4年度に作成した花巡りのパンフレットを基に説明しました。参加者にも好評で、地域にこのようなフィールドがあり、身近な自然を体験することができました。

2月には、八王子・日野カワセミ会の協力の下、「湯殿川探鳥会」を開催し、片倉城跡公園から湯殿川の窯土橋まで往復、野鳥観察をしました。湯殿川はフェンスに囲まれているためか、鳥が安心して生息できるようで、30種以上の野鳥を確認できました。

12月には、勉強会として館クリーンセンターの見学をしました。最新のごみ処理施設だけではなく、ゲーム式でごみ分別ゲームが体験できるなど、子供から大人まで楽しく学べる場所になっており、地域の拠点としての役割も兼ね添えた施設ということ学びました。



自然体験講座

■ 特色のある取組

宇津貫緑地の竹林の整備を継続して行っています。令和4年度は、6月に新竹の整備を行い、1月に古竹の伐採を中心に整備を行いました。当初は周りの草刈りから始まり、竹林の中に入れないほど荒れていましたが、整備を始めて約3年が経ち、竹林として健全な状態になりつつあります。竹林は手を入れなければ元の状態へと移行してしまいます。竹林整備の横断幕を設置して、周辺を通る市民への啓発活動も行っています。

竹林を整備するだけでなく、竹林を活かすために竹の効用や竹細工を伝えていくことを、これからも継続して行います。